

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 東員町	対談項目1 地方創生について	全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生は地方の創意工夫で考え、市町の構想を実現していくことと認識している。市町に裁量権がなければ想いを実現することができない。国の規制を緩和して欲しい。 ・持続可能なまちづくりをするには霞が関の考え方では実現できない。 ・権限移譲により農地転用許可ができる面積が広がるぐらいではどうしようもない。 ・交付金よりもまちのことを考えることができる権限をもってきて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生については、交付金の議論ばかりではなく、規制緩和の議論など、個別の事案を踏まえた根本的な議論が必要と考えている。 ・農地転用許可に係る権限移譲はファーストステップと考えており、獲得した権限移譲のことを全国的にしっかりやるとともに、次のステップとして、規制緩和の議論が必要である。 ・規制緩和には、一定の論理の積み上げも必要だが、やっぱり政治で突破しないといけないので、一緒に働きかけをしていきたい。
東員町	対談項目1 地方創生について	コンパクトシィー(マスタープラン)について	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の東員駅は北勢線の2つの駅を統合してできた経緯があり、鉄道を活かしながら駅周辺を人が集まるところ(コンパクトシィーの拠点)にしたい。 ・駅と役場のエリアは、町のまんなか位置する。坂が多く高齢化、独居化が進んでいるネオポリスからの人の移動を考えたい。 ・また、小学校の校舎に空きのある員弁川南側のインター周辺(三和地区)に人口の誘導を図りたいが、商業施設はできても住宅にはできない。ただ、県が判断すればできると考えている。 ・都市計画の用途区域の見直し、農地法等の規制を緩和しなければ構想が前に進まない。 ・東員町のマスタープランについては、指示をしているが、規制緩和等を同時にやらないとまず不可能。 ・開発だけでなく、農業も守るべきところは守っている。耕作放棄地を活用して、体験農業、果樹・野菜栽培、農福連携を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシィー構想エリアについての農地の転用等は、論理的には可能性はゼロではないが、非常に厳しい中なので、面積要件の検討なども含め具体的な作戦を議論していきたい。 ・インター付近(三和地区)の住宅開発については県でできることがあれば、確認・検討させたい。 ・三重県の都市マスタープランで、日常サービスを受けられる都市機能の集約を図る地域拠点と位置付けられているが、東員町の都市計画マスタープランの位置づけも必要と考えている。 ・町の目指している構想で、現行制度の中で出来ることがあれば県も一緒になってその活用を考えていく。 ・都市マスタープランと同時に規制を突破していくような議論をしていくことが必要

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
東員町	対談項目1 地方創生について	交通政策について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どもたちが暮らしやすい街づくりを進めたい。暮らしやすいまちづくりとは人の移動がうまくいくことと考えている。 ・具体的には北勢線の利用促進を図り、鉄道を活用したまちづくりを進めたい。 ・高齢者が増えるので、公共交通での移動の方向に政策を変えなければいけない。道路ではなく、鉄道にお金をかけ、鉄道を復権させるべき。国を動かすために、地方も利用客を増加させていかなければいけない。(その一つがコンパクトシティ。) ・7割の住民が不便であると考えているコミュニティーバスに替わる対策として、オンデマンドやNPOの活用も検討している。無償ボランティアには限界があるが、有償ボランティアの対応ではタクシー会社等との競合の問題があり前に進まない。これも規制緩和のひとつ。 ・国が公共交通について誘導してくれるのか、町にまかせてくれるのか中途半端である。 ・民間交通事業者との調整などが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分権会議でも道路運送法が議論になった。情報収集をして、町の取組についての優先順位や制度上何がネックになっているのか一緒に考えていきたい。
東員町	対談項目1 地方創生について	在宅医療について	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、在宅医療の充実が必要と考えているが、近くで訪問医療に対応しているところは四日市市に一つしかなく、広域で考える必要がある。 ・いなべ市医師会のエリアであるが、住民は桑名市、四日市市、名古屋市の病院へ行っており、桑名市も含めて全体で連携して考えていかなければいけない。病院、医師会と連携し、まとまる必要があるが、それぞれの思いがバラバラで、誰かが手を差し伸べないとまとまっていけない。 ・今後の医療、看護、介護について国も県も市町も一緒になって考えないと予算的に持たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想調整会議の中で、在宅医療を含めた医療機能の機能分化・連携等、桑名地域の議論の状況を確認したうえで、在宅医療体制の底上げができるような議論もしてみたい。